

特集2

ハイブリッド観望会

大池駿和、岡野友香、國松亜美（三重大学教育学部天文学研究室）

1. はじめに

新型コロナウイルスの影響で今まで実施していた対面形式の観望会を行うことができなくなった。そこでオンライン形式の観望会を実施したところ、遠方に住んでいる方にも参加していただくことができ、好評であった。

制限が緩和され対面観望会の実施が可能になってからは、対面観望会とオンライン観望会両方の良さを生かしたハイブリッド形式の観望会を実施している。

2. ハイブリッド観望会

2.1 ハイブリッド観望会の行い方

ハイブリッド観望会の主な特徴は、対面観望会の様子をオンライン上で共有し、オンライン観望会の様子を観望会会場にプロジェクションすることにより、お互いの様子を確認することが出来ることである。

対面では望遠鏡を設置し、研究室生が解説などを行い、参加者とコミュニケーションをとって行って観望会を進めている。オンラインでは、オンラインミーティングサービスのZoomを用いて、望遠鏡に映る画面をオンライン上で共有、画面を操作して解説をしながらチャット機能で質問に返答して観望会を進めている。対面では相手の反応を見ながら直接コミュニケーションを行えられることを、オンラインでは参加場所が限定されないこと、望遠鏡で見ている内容を共有しながら解説できることをメリットととらえ、これらを生かして観望会を行うよう心掛けている。

2.2 ハイブリッド観望会で使う機材

分解能の異なる二種類のVixen天体望遠鏡、SVBONYの接眼レンズカメラ、Sonyのビデ

オカメラ、Basicolorのキャプチャーボードを使い、観望会を行う。オンライン観望会では、天体望遠鏡に接眼レンズカメラをつけ、SharpCapを用いて望遠鏡の画面をパソコンの画面に映し出して画面共有をしている。また、ビデオカメラの映像はキャプチャーボードを用いて、PotPlayerを介して映像をパソコンの画面に映し出し画面共有をしている。

2.3 広報活動

多くの人に観望会に参加してもらうためにSNSを活用して広報活動を行っている。天文研究室のアカウント（図1、2）を作成し、観望会のチラシを投稿したり、観望会のような写真などを投稿したりした。これによって来場者が増加した。



図1 Twitter



図2 Instagram

3. 2022年度の観望会

2022年度に行ったハイブリッド観望会で

行った試みについて紹介する。

- ・第 55 回定期観望会「七夕観望会」
初めてのハイブリッド観望会、対面での観望会の一角でオンライン観望会を行った。
Zoom での様子も対面でも確認できるようにプロジェクターを用いて壁に投影した。
- ・第 57 回定期観望会「皆既月食を見よう」
来場者も多く、望遠鏡のレンズで撮影した写真を参加者に渡し、それを SNS にアップロードする方も多く見られた。
- ・第 58 回定期観望会
太陽系の惑星についての解説動画をプロジェクターで対面の参加者に向けて流した。

4. 観望会を通して

ハイブリッド観望会としての活動は今年始まったものであるが、回を重ねるごとに改善を重ね、よりハイブリッド観望会としてクオリティの高いものにすることが出来た。対面では思い出として写真を渡すという工夫をしてコミュニケーションを行い、オンラインでは遠方から参加していただいた方に現地の空の様子を聞き、異なる場所のリアルタイムでの空の違いなどを共有することができ、双方の良さを生かした観望会を行うことが出来た。

5. おわりに

現在でも沢山の方にご来場いただいているが、三重大学職員や小学生・大学生のように年齢層が偏っている。より多くの年代の方に観望会に来場頂き天文について興味を持ってもらうためにも、広報活動、観望会への満足度の向上に力を入れたいと考える。具体的な計画としては、現代のネット社会にのっとり、三重大学天文教育独自の YouTube チャンネルの作成・Instagram ライブなどの配信、また、学外施設でのチラシの掲載、観望室に行くまでの装飾・気温管理・音楽・プロジェクターを用いた事前知識の向上を考えている。



大池 駿和
岡野 友香
國松 亜美

* * * * *